

野田の伝統津久舞



カエルの
お面！



[津久舞で行われる事]

津久舞は津久柱（高さ14.5メートルの柱）を水をつかさどる龍に見立ててその上で、蛙の面をつけたジュウジロウさんと呼ばれる舞男が龍をからかい怒らせて雨を降らせるという物語を舞として演じます。演じた津久舞を須賀神社に雨乞い祈願として奉納し雨を降らせていただくようお願いします。また、龍をからかい怒らせるしぐさを、柱の中ほどで反りを見せたり柱上で寝転がったり、逆立ちをして表現します。私達は、DVDで津久舞の踊りを見ました。DVDからでも踊りの迫力を感じる事ができました。皆さんも是非行ってみてください！

[定例行事の開催状況]

毎年7月15日前後の土曜日（三ヶ町祭りの中日）に、地区内広場で津久舞を演じます。11月下旬から12月初旬には「野田市民俗芸能のつどい」の場で、学校児童を中心にしたつく囉子の演奏が行われます。

[津久舞って何？]

津久舞とは、雨乞いの神事とされています。高さ15メートルの柱を立ててジュウジロウさんと呼ばれる白装束に雨蛙の面をかぶった演者が柱や樽の柱上から張った綱の上などで曲芸を披露することです。

また、平成11年には国の「選別無形文化財」になり、また「千葉県指定無形民俗文化財」に、指定されました。



皆さんもぜひ行ってみてください！